

# 100年先も輝き続ける新たな温泉文化を発信する拠点

## 道後温泉別館 飛鳥乃湯泉

### グランドオープン

9月の「道後温泉別館 飛鳥乃湯泉」オープン後、中庭の整備と椿の湯の浴室など改修が完了する、12月26日(火)、魅力ある新たな道後温泉の集客拠点として「道後温泉別館 飛鳥乃湯泉」がグランドオープンします。

また、グランドオープン記念式典後には中庭を一般開放（14時30分ごろ～）し、餅まきやイラストレーターの茂本ヒデキチさんのライブペイントを開催しますので、ぜひご来場ください。



道後温泉別館 飛鳥乃湯泉



日本最古といわれる道後温泉にふさわしく、西暦596年聖徳太子の来浴の物語や伝説が残る、飛鳥時代の建築様式を取り入れた湯屋です。屋根の上には、道後温泉のシンボルである塔屋を配置しています。

内部空間は、道後温泉にまつわる物語を「愛媛の伝統工芸」と「最先端のアート」をコラボレーションした作品で演出し、温泉による「癒やし」と、伝統工芸・アートによる「感性の刺激」を楽しんでいただけます。

### 聖徳太子が来浴された情景を再現した中庭

聖徳太子が道後温泉に来浴された際、残したとされる「湯岡の碑文」に、神の温泉を囲んで、椿が互いに枝を交えてしげりあい、椿の実が花びらを覆って温泉に垂れている」と描かれていた当時の明媚な風光をイメージし、椿が生い茂っている「椿の森」や「湯の川」「温泉碑」を再現します。回廊、広場、街路がひと



聖徳太子

### 生まれ変わる道後温泉 椿の湯

昭和28年に四国4県で開催された「第8回国民体育大会」開催の年に新設され、現在の椿の湯は昭和59年に改築されました。コンクリート造りで蔵屋敷風の落ち着いたたたずまいで、浴室には道後温泉特有の湯釜も置かれています。

1階は、新たに整備される中庭に面した出入口を新設し、入浴客以外も利用可能なトイレを新設します。また、浴室には、外気に開放された休憩コーナーを新設します。

男湯の湯釜には、「十年の汗を道後の温泉（ゆ）に洗い」、女湯は「巡礼の杓に汲みたる椿かな」と正岡子規の俳句が刻まれています。椿は聖徳太子が道後温泉をたたえた碑文の中で象徴的に使われていることから名が付けられました。

今回、既に30年以上が経過し、施設設備などの老朽化に伴い改修を行う必要があり、新施設に併せた一体



道後温泉事務所 ☎ 921 5141・FAX 934 3415、道後温泉コンソーシアム ☎ 932 1126・FAX 915 0126